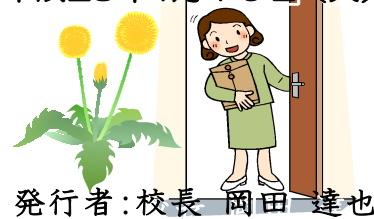


# チーム えがお

《学校教育目標》『自ら学び 心優しく たくましく生きる児童の育成』  
 ☆「かしく」自ら学ぶ子 ☆「やさしく」心豊かな子 ☆「たくましく」やりぬく子



発行者:校長 岡田 達也

～ えがお かがやき がんばる 学校 困うえんだん 「チーム北川」～

## 家庭訪問



## お世話になります!

美しく咲き誇っていた桜の季節も過ぎ去り、若葉の美しい季節になりました。子どもたちは、新しい学年や新しい先生との出会いの緊張も少しずつ和らぎ、普段の元気よさを取り戻しつつあります。子どもたち一人ひとりが、新たな目標に向かってがんばってくれることを期待しています。同時に、今の気持ちをいつまでも持ち続け、豊かな実を結ぶように願っています。

今週18日(月)から、家庭訪問が始まりました。よく言われるように、「教育」は、家庭と学校、地域が協力することが必要不可欠だと思います。まず、保護者の方の願いや思いをしっかりと聞きし、今後の教育活動にいかしていきたいと考えています。学校への要望などもありましたら、ご遠慮なくお申し出ください。どうぞよろしくお願いいたします。



## 「ノートをとる」ことの大切さ!



子どもたちにとって、授業中に行うことはたくさんあります。教師や友達の話聞く、考える、発表する、教科書を読む、ノートをとる、等々。これらのことは、「わかる」「できる」ようになるため、学力向上には大切なことです。

その中で、子どもたちが適切にノートを使用していくことは、授業における知識・理解を深めるだけでなく、学習に対する態度の育成にもつながっていきます。子ども自身がノートを見て、「今日は、こんな学習をしたんだ。」「このことが大切なんだ。」「こんなことがわかったよ。」と実感できるようにすることが大切です。こうした指導を「ノート指導」と言います。学校では、それぞれの学年に応じたノート指導に取り組んでいます。

子どもにとって「ノートをとる」ことは、単に黒板を「写す」だけでなく、次のような意味があります。

- ◇その授業の「学び」を振り返ることができる!
- ◇自分の考えをつくったり、深めたりすることができる!
- ◇学ぶ意欲を高めることができる!

特に、「学ぶ意欲を高める」ためには、教師の点検・評価が欠かせません。また、高学年になるほど「自分の考えをつくったり、深めたりする」ことが求められます。

そのため、それぞれの学年において、どのようにノートをとればよいのかがわかるよう、参考となる「ノート例」(モデル)を掲示したり、授業でICTを活用して紹介したりするようにしています。子どもたちにノートをていねいに、しかも工夫しながらとらせることで、学力向上が図られます。これからも、ノート指導を充実させ、学習が蓄積された「ノート」という宝物を子どもとともに大切にしていきたいと思ひます。

ご家庭でも、ノートのとり方をお子さんとの話題にいただければ嬉しいです。ぜひ、そのときは温かな励ましの言葉をかけていただければ、ますます意欲がわいてくると思ひます。

